

して自分の喰ひ物にする様な流
弊の人ではない
自分
であつた現在でも「私は八時職
労働法を自ら破つて多くは十時
の資本
家の商會會所と結

職工の涙を燃料として蘇つた鐵の都

主張と糧とに拮まされて なくなく當局に平伏す

併し誠意が無ければ永久の策でない

生活を壓迫され生命を威嚇されたる八幡職工
は主張と糧の間に板挟みとなり、幾
多の悲痛なる家庭悲劇を演出して泣
泣くも漸次當局の意志に屈伏しつゝある状態
である即ち一部職工は飢に堪へて當局に始業
を迫り又一部の職工は國粹會の俠客や軍
隊の威嚇に堪へて沈黙を守るの情
況にて八幡は漸く平靜を保てる外
觀を呈し來り死の林の如く屹立して居た
各工場の煙突も次第に黒煙を吐くに至つたさ
れど固より之れは當局の高壓による一時的
の平靜で職工等が此の苦い經驗に
よつて鍛鍊されたる不平の意志は
更に猛烈強固なるものがあるらし
いから此際當局が充分なる誠意を示さねば
却て將來に恐るべき結果を見るに至るで
あらう高壓は一時を制すべし決して
永久の策でない位の事は白痴にあ
らざる限り判り切つた話である

終熄期に入つて

流

に増加し其収入は兩腕勤勞者
決して相違はないを以て彼等
の手腕力には大企業の支那人
と比べて優つても劣つて居ない
から二萬圓三萬圓の年報額も
當然であらうとある

活動家
本會は
これを
因に熊本
を巡視し
只熊本
は市の同
く返野の
込んで居
難
技師

大變だ!

じんめい
人名薄調
けで
大
内務省も市
○期日
法に依り行はれたる

◆東京の雪

